

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○9月29日～

先週は米国の GDP の数字が良かったことでドル／円が急騰して、150 円あたりまで上昇しましたがリスクオン相場がいつまで続くかに注目したいです。

株の動きを見ると米国株がそろそろ頭打ちとなってきたようにも見えるため 10 月に大きめの調整が入るリスクは意識しておきたいです。

10 月 1 日から米国は政府閉鎖の可能性もあり、中国は大型連休入りとなるため注意がいります。政府閉鎖と同時に大量の職員のリストラが計画されているとの噂もあります。イーロン・マスク氏が今年前半にリストラをしましたがい再び大規模リストラが行われるかもしれません。

また、トランプ大統領は医薬品に 10 月 1 日から 100% の関税をかけると発表しました。

米国内で製造拠点を着工すれば免除するということです。特許が切れていない医薬品が中心で、ジェネリック医薬品(後発薬)は除外されるようです。

医薬品に関しては、欧州と日本は上限 15% の税率適用ということですが。

分野別関税では、米国に輸入される大型トラックには 25%、キッチンキャビネットや洗面化粧台に 50%、布張り家具には 30% の関税がそれぞれ適用されることも発表しました。

関税問題が再燃してきていることや、今後発表される経済指標に関税の影響がじわじわと効いてくることを考えると、年末にかけて半年続いた株の上昇トレンドが崩れていくリスクも想定しておく必要があります。

金(ゴールド)の高騰も続いていますが、こちらはドルに対する信用不安や地政学リスクの影響もありそうです。

NATO(北大西洋条約機構)とロシアが近いうちに開戦するのではないかという不安もあり、一部の資金が日本株や金(ゴールド)に避難してきているという話もあります。

米国も国防総省(ペンタゴン)を戦争省とするなどの不可解な動きがあります。

そして、気になるニュースとして、今週、ヘグセス米国防長官は世界各地に配属されている米軍の幹部を米国に呼び寄せて緊急会議を行うと発表しました。

会議の内容は明らかにされておらず、一部で不安の声も出ています。

これほど多くの海外にいる米軍幹部が米国に戻って会議をするのは前代未聞とのことです。

日本では自民総裁選のニュースで、高市トレード(円安・株高)が一部で盛り上がっているようですが世界情勢を見ると 10 月から相場が急変することも考えておきたいです。

不安要素が多いのに相場は高値圏にあるため急落リスクも高く、値動きも荒くなる可能性があります。今のところリスク回避的な動きになっていませんが慎重に取引していきたいです。

中国は 10 月 1 日から国慶節です。今年は中秋節と重なるため、例年よりも長い 8 連休となります。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル／円>

先週は週の後半に大きく上昇しました。今までのレンジを超えて、150 円に迫るところまで値を伸ばしました。150 円、151円付近は抵抗も多く、ここからの上昇はあまり期待できないかもしれません。149 円を超えてきたことで、148 円あたりがサポートになりそうです。

下値は147. 8円を割り込んでくると再度146－149円程度のレンジに戻ってしまう可能性があります。145. 5円を割り込むと円高リスクが出てきますが 146 円あたりで下げ止まれば狭い動きが続きそうです。

上値は 150 円を超えると 8 月初めの高値150. 9円が視野に入ってきてそうです。

<気になるクロス円>

ユーロはじわじわと上昇し、175 円あたりまできました。

2024 年 7 月の高値175. 5円あたりを明確に上抜ければテクニカル的には新たな上昇局面に入っていきます。ただし、反落となればダブルトップのような形になるため警戒もいります。

NZ ドルはテクニカルで見ると下値不安があるため安値更新の動きに注意がいります。

南アフリカランドは上昇が続いているので、昨年高値の 9 円あたりまで上昇することを期待したいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では 8 月鉱工業生産、7－9 月期日銀短観、植田・日銀総裁発言などがあります。

米国では 8 月住宅販売保留指数、7 月ケース・シラー米住宅価格指数、9 月シカゴ購買部協会景気指数、8 月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、9 月消費者信頼感指数(コンファレンス・ボード)、9 月ADP雇用統計、9 月製造業PMI(改定値)、9 月ISM製造業景況指数、前週分新規失業保険申請件数、8 月製造業新規受注、9 月雇用統計、9 月サービス部門・総合PMI(改定値)、9 月ISM非製造業景況指数などの発表があります。

欧州では、ドイツとユーロ圏で 9 月消費者物価指数、9 月製造業・サービス業PMI(改定値)、ユーロ圏でラガルド・ECB総裁発言、8 月卸売物価指数などがあります。

ほかには、オーストラリアで政策金利、英国で 4－6 月期GDP(改定値)、中国で 9 月製造業PMIの発表などがあります。